本事例の基礎データ

カテゴリ	情報モラル					
学校種	中学校	事例提	供者	東村山市立東村山第四中学校		
学年	第1~3学年	年 教科	等	特別活動		
単元名	タブレット端末持ち帰り・使い方のルールを決める					
主な ICT 機器	・タブレット端末(キーボード付き Chrome OS 機/一人1台)					
授業の概要	生徒が全員参加してタブレット端末の持ち帰り・使い方のルールを					
	決める					
			・情	報に関する個人の権利と重要性について		
「情報活用能力	情報モラル	CTED 4	理解できる。			
#東京モデル」 の位置付け		STEP 4	・情報に関する個人の権利と重要性を踏ま			
			え	、適切に行動しようとする。		

本事例における教育の情報化について

	各学級でタブレット端末を使用する際のメリット・デメリットを考える		
ポイント1	第1時に各学級の生活班でタブレット型端末の持ち帰り方や使い方につ		
	いてメリットやデメリットを考えることで、生徒一人一人が自分事とし		
	てルール作りに参加することを促す。Jamboard で各班の意見をまとめ		
	ることで、その後のクラス全体での考えの共有を行うことができる。		
	生徒会でタブレット端末の新ルール原案を提案する活動		
ポイント2	各学級から出た「学級案」を持ち寄り、タブレット端末の新ルール原案		
	を作成する。全学年参加でそれぞれの立場で主張を行い、議論を重ね		
	る。その際、スプレッドシートを活用することで意見を整理し、提案さ		
	れた考えを生かして合意形成することができる。		
	全学級が Google Meet に参加し、生徒総会でルールを決定する授業		
	全学級が Meet でオンライン生徒総会に参加する。オンライン生徒総会		
ポイント3	は、生徒会が作成した原案を提示し、意見がある生徒は各学級で発言す		
	る。生徒会及び専門委員長の生徒は別室に集まって質問や意見への対応		
	を協議し、ルールの修正を行っていく。全員参加で決めたルールである		
	ことを確認することにより、生徒全員が責任感をもつことができる。		

本単元(題材)における指導の流れ

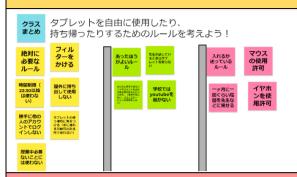
時間	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
	●各学級でタブレット端末の持ち帰りや	○Jamboard を用意して意見を出させること
	使い方のルールについて「学級案」を	により、生徒一人一人の考えを集約し、学
	考える。	校全体での共有を行いやすくする。
	・各班で持ち帰り方や使い方についての	☆学級や学校における人間関係をよりよく形
1	メリットとデメリットを考え、学級全	成し、他者と協働して日常生活の向上を図
企	体で共有した後、「学級案」をまとめ	ろうとする。
時)	る。	【主体的に学習に取り組む態度】
2		☆学級や学校生活をよりよくするための課題
		を見いだしている。【思考・判断・表現】
		☆異なる意見から共通点を見いだし合意形成
		に向け取り組んでいる。
		【思考・判断・表現】
	●生徒会で「新ルール原案」を作成す	○各学年の意見をスプレッドシートにまとめ
	る。	ることにより、考えの共有、修正、整理等
*	・各学級が作成した「学級案」を基に議	を行いやすくする。
	論を重ねて原案を作成する。	
	●生徒総会で新ルールを決定する。	○Meet に全学級が参加することにより集合
	全学級が Meet でオンライン生徒総会に	せずに生徒総会を開催する。
	参加する。オンライン生徒総会は、生徒	O自由に考えを出させることで全員が参加し
_	会が作成した原案を提示し、意見がある	て決めたルールであることを自覚させる。
3	生徒は各学級で発言する。生徒会及び専	☆学級や学校の生活上の諸課題を話し合って
	門委員長の生徒は別室に集まって質問や	解決することや他者と協働して取り組むこ
	意見への対応を協議し、ルールの修正を	との大切さを理解している。
	行い、ルールを決定する。	【知識・技能】

本時の流れ

段階	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価				
導	●タブレット端末の持ち帰りや使い方に関					
入	するメリットやデメリットを考え、より					
	よい活用をしていくために適切なルール					
	づくりの準備をする。					
	・タブレット端末の持ち帰りや使い方につ	○タブレット端末の持ち帰りや使い方を検				
	いて、ルールが変更されることを理解	討することを伝え、スライドを用いて本				
	し、本時の流れを確認する。	時の流れについて確認する。				
	タブレット端末の持ち帰りや使い方によってどのようなメリットやデメリットがあるだろう					
展	●「タブレット端末を自由に使用したり、					
開	持ち帰ったりするメリット」について考					
	える。					
	・各班に割り振られた Jamboard で 一人	○Jamboard を各班分用意する。				
	一人メリットに対する考えを付箋で書き	全員が考えを出すように促す。				
	込み、その後、班長を中心に班の意見を					
	まとめる。	○タブレット端末の扱いの習熟が高い生徒				
	・各班の意見を班長が発表し、学級で共有	に学級の意見を別のボードにまとめてお				
	する。	くように依頼する。				
	●「タブレット端末を自由に使用したり、	☆学級や学校における人間関係をよりよく				
	持ち帰ったりするデメリット」について	形成し、他者と協働して日常生活の向上				
	考える。※メリットの時と同じ流れで進	を図ろうとする。				
	行する。	【主体的に学習に取り組む態度】				
ま	●学級としてまとめたメリットとデメリッ	○よりよいルールになるように全員が主体				
٤	トを振り返り、これらを踏まえて次時に	的に参加するように促す。				
め	新しいルールの原案を作ることを説明す					
	る。					

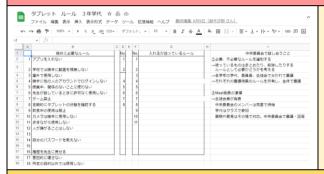
授業の実際

【ポイント1】各学級でタブレット端末を使用する際のメリット・デメリットを考える



班ごとに Jamboard のシートを用意することで全体の場では考えを発表しにくい生徒も考えを発表し、参加することができた。その後、「学級案」作成の際にも考えを整理するのに効果的だった。

【ポイント2】生徒会でタブレット端末の新ルール原案を提案する活動



各学年のルール原案をスプレッドシートにまとめることで、考えの修正や加筆などを効率的に行うことができた。また、他学年の考え等を共有する際にも効果的であった。

【ポイント3】全学級が Google Meet に参加し、生徒総会でルールを決定する授業



各学級から自由に意見を発信することができたので、全員が体育館などに集まる生徒総会より考えを活発に発表することができた。生徒会及び専門委員長が協議した後、その場でルールの修正が行われたことで全員がルール決定に参加している自覚をもつことができた。

今後に向けて

- ●ルールの運用やタブレット端末の使い方についての実態を定期的に把握し、必要があれば 同様の形態で修正を行っていきたい。
- ●生徒自身がタブレット端末を活用することで教育効果が上がることを実感できるようにしていきたい。